

編第二十三號

第十三師團（歩兵第十五旅團、工兵第十三大隊、歩兵第十六  
第三十聯隊留守隊、工兵第十三大隊留守隊）ノ編成ヲ令セ  
ル編成第一日ハ一月十日ナリ

大正九年一月九日午後三時

陸軍大臣 田中義一

海軍大臣 加藤友三郎 殿

軍務局

陸軍部

軍務局受

9. 1. 17

0878

陸軍

参一發第百二號

大正九年一月十五日  
参謀總長

供覽

一、第十三師團（步兵第十五旅團及工兵第十三大隊欠）

ヲ西伯利ニ派遣シ浦潮派遣軍司令官ノ隷下ニ入ラン

×ラル



新派遣部隊ハ一月中旬ヨリ二月上旬ニ互リ敦賀ヲ出

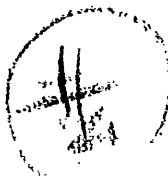
發シ主力ハ浦潮ニ上陸シ一部ハ朝鮮及滿洲ヲ經テ輸

送セララルル豫定ナリ

西伯利

第十三師團（旅及工兵大隊欠）主力浦潮上陸セヨトスル一月中旬一二月

上旬敦賀ヲ



参一發第百三號

参謀 總長

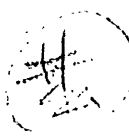
大正九年一月廿六日

9. 1. 27

ヒロシノ河谷野中支隊行動概況

「ペトロフスキー」西方「ムホルシビル」方面ノ過激派軍ハ漸次其兵カシ増加シ遂次「ペトロフスキー」ニ近接セントレタルヲ以テ第五師團西地區司令官ハ其本據ヲ西復シテ禍根ヲ剪滅セントシ野中支隊ヲ以テ之ヲ討伐ニ任セタリ其概況左ノ如シ

西伯利



野中支隊（長歩兵少佐野中保教、歩兵第二十二聯隊第一大隊機関銃一小隊、阻撃砲二）ハ一月二日「ペトロフスキー」出發途中小數ノ敵ヲ駆逐シ三日「ハラウスカヤ」ヲ占領シ六日「ニコリスカヤ」附近ニ在ル敵約四百ヲ擊退シ七日「ハラビロ」ノ河沿、照壁、鐵底の各陣ヲ奪取ス

ルスコエ附近ヲ占領セル機關銃ニ有スル約一千ノ敵ヲ包圍攻撃シテ大打撃ヲ與ヘ主力ヲムホルニビール方面ニ一部ヲヒロク河谷ニ撃退ス敵遺棄セル屍体百五十ヲ算シ小銃二百乗馬三十八頭其他被服等多數ヲ鹵獲セリ支隊ニ輕傷一ヲ生セシメ

同日更ニムホルニビールニ向ヒシモ敵ハ既ニ南方ヲヒロク河谷ニ退却シタル後ナリシヲ以テ支隊ハ此地ニ於テ連日ノ行動ニ依リテ生セル多ク凍傷患者ノ處理並ニ前進ノ準備ヲナシ傍ヲ普傳及施療ヲ行ヒ九日ニ至ル十日支隊ハニバルツウイニ轉進シ零下五十度ノ酷寒ヲ冒シ敵ヲ撃退シテ該地ヲ占領シ更ニ同夜半運動ヲ起シテノウオガルダミンスコエニ集合セシ約二千二百ノ

敵ヲ急襲ニテ翌十一日朝該地附近一帯ノ村落ヲ占領ス。此日支隊長ハ約三千ノ過激派軍ヲハチエールトスキーダツアーンニ在ルヲ知リ、ノウオサルガミンスコエ及其北方ヲ占領シテ敵襲ニ備ヘタリシニ十二日拂曉約三千ノ敵ハ東西南三面ヨリ我ヲ包圍シテ攻撃手ニ來リタルヲ以テ支隊ハ午前十時攻撃ニ轉シ、主トシテゴペスチヤンスコエ方面ニ四散潰走セシム。戰場ニ遺棄セル敵死屍累々トシテ其數五百三十二ヲ算シ支隊ハ戦死下士卒十一、重傷七、輕傷セラ出ス。爾後支隊ハ敗敵ヲ掃蕩シツ、十五日午後ヨタルバカタニ進出シ茲ニ討伐ノ目的ヲ達シタルヲ以テ其主力ハウエルブネウジンスクニ中隊ハゴペスチヤンカニ歸レリ。

0882

是ヨリ先<sup>レ</sup>ハトロフスキー<sup>レ</sup>守備隊ハ野中支隊<sup>ニ</sup>カカス  
 ル爲<sup>ニ</sup>十五日<sup>ノ</sup>カタシガール<sup>ニ</sup>向ヒ前進中支隊ト合ス  
 支隊今次ノ行動ハ<sup>レ</sup>ヒロク<sup>レ</sup>河谷<sup>ニ</sup>横行跋扈セル數千  
 過激派軍ニ徹底的打撃ヲ與ヘ<sup>テ</sup>鹵獲品小銃一  
 千一百三十二<sup>ニ</sup>彈藥糧秣多數<sup>ヲ</sup>馬匹三十八<sup>ニ</sup>遺シ戰  
 場<sup>ニ</sup>遺棄セル敵屍体合計七百四十<sup>ニ</sup>トス



編第二十五號

尼港(ニコラエウスク)派遣隊(派遣無線電信隊缺)デカストリ  
守備歩兵中隊ノ編成ヲ令セラル編成第一日ハ二月二十二日ナリ

大正九年二月二十一日午前十一時

陸軍大臣 田中義一

海軍大臣 加藤友三郎

第一課長

第二課長

軍務局

陸軍

6885

9. 2. 24



供

軍務局

編第二十四號

尼港（ニコラエウスク）派遣無線電信隊ノ編成ヲ令セラル編成  
第一日ハ二月二十一日ナリ

大正九年二月二十日午後三時

陸軍大臣田中義一

海軍大臣加藤友三郎殿

課 課  
小 牧

陸 軍

0886

軍務局

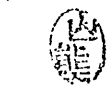
秘

參一發第百四號

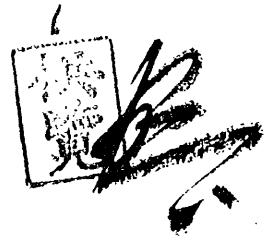
大正九年三月八日

參謀總長

9. 8. 9  
官房受領



通報



「ニコラエフスク」附近ノ露國過激派ハ逐次其勢力ヲ増加シ一月下旬以來該地ニ在ル我第十四師團ノ守備隊竝海軍無線電信隊ヲ攻撃シ二月七日以後該地トノ連絡杜絶シ帝國軍隊竝居留民ノ安否查トシテ知ル能ハサルニ至リシヲ以テ之ヲ救援スル爲第七師團ヨリ歩兵一大隊ヲ基幹トスル部隊ヲ派遣セララルコトナレリ然ルニ二月二十八日ニ至リ同地過激派ハ我頑強ナル抵抗ニ對シ容易ニ其目的ヲ達成シ難キヲ自覺セルモノノ如ク茲ニ對敵行動中止ノ希望ヲ我軍ニ通告シ來レルヲ以テ同地守備隊ハ之ヲ許容シタリト雖彼等ノ誠意如何ハ深ク爾後ノ

0887

動靜ニ徴スルヲ要スルモノアルヲ以テ第七師團ノ派遣  
隊ハ目下派遣準備完整ノ姿勢ニ於テ北海道ニ在リテ待  
命中ナリ

0888

參一發第百五號

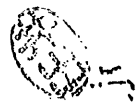
大正九年四月七日

參謀總長

通報

供養

三月三十一日帝國政府カ西伯利駐兵ニ関シ中外ニ聲明  
スルヤ浦潮派遣軍司令官ハ四月二日露國革命政府ニ對  
シ右聲明ヲ通告スルト共ニ左ノ要旨ノ要求ヲ為セリ



一、我軍ノ駐出ニ必要ナル諸般ノ事項即チ宿營給養運  
輸通信等ニ関シ支障ナカラシム  
二、聯合軍相互ノ協調ニ基キ或ハ單獨ニ我政府又ハ我  
軍ト露國官憲トノ間ニ締結シタル諸約條ハ其何レ  
ノ時ノモノタルシ問ハス凡テ之ヲ尊重ス

三、我軍務ヲ補助スルモノニ對シテハ我軍ノ了解ナク

滋悔物革命軍ニ對シテ之ヲ速捕シ若シ其自由ヲ束縛スルコトナシ



參謀總長



0889

四、滿鮮地方ニ對シ我軍ニ危害ヲ與フハキ國隊及秘察

結社ノ行爲ヲ防遏禁止ス

五、出版物ノ所説及民衆ノ言動ニシテ直接我國及我軍

ノ存立ヲ脅威スルモノヲ抑止ス

六、我居留民(韓人含む)ノ生命財產及權利ヲ安固ナラシム

ルニ関シ最善ノ努力ヲナス

爾後交渉ノ結果四日午後五時露國側ハ我要求ヲ容レ五

日午後五時調印スルニ決セリ

先是在浦潮革命軍ハ兩三日前ヨリ兵力集結ノ爲移動

絶ニサレヲ以テ三日革命軍司令官ニ對シ此ノ如キハ動

モスレハ意圖外ノ戰闘ヲ惹起スルノ恐アレハ濫ニ軍隊

ヲ行動セシムヘカラサルヲ忠告セリ

然ルニ前記我忠告ニ従ハサルノミナラス同四日夜十時



半頃突然革命軍ハ我ニ對シ攻勢ヲ取リシカハ軍ハ決然  
 起テ之ニ應シ五日未明迄ニ殆ト在浦潮革命軍全部ノ武  
 裝ヲ解除シ其他沿海州各地ニ於テ彼等ノ不信ヲ懲ス為  
 適法ノ處置ヲ執リ海軍第五戰隊モ亦在港敵艦艇ノ武裝  
 ヲ解除セリ

0891

第一發第百六號

大正九年四月九日

參謀總長

9.4.10  
電話受領

通報

供覽

前號所報以後得タル沿海州露軍武裝解除ノ狀況左ノ如シ  
一浦潮方面ノ情況

加

四月四日沿海州臨時自治政府ハ我提出要求ノ全部ヲ承認セシニ拘ラス同日午後十時三十分頃露軍我第一兵站司令部ハ浦潮停車場附近一歩哨ニ對シ十數發ノ射撃ヲ加ヘ中隊長ハ中止ヲ求メシモ應セスシテ反テ其兵力ヲ増加シ射撃スルコト益々熾ナリシカハ中隊長ハ止ムヲ得ス歩哨ヲ増援シテ之ト對戦スルニ至レリ次テ午後十

西伯洲

一時頃ヨリ夜半十二時頃ニ至ル間露軍ハ市内各所ニ於テ  
露海軍ノ武裝解除ノ狀況

テ我傳令巡察等ヲ狙撃スルノ行爲ヲ開始シ爲ニ之ニ從  
事セシ自動車運轉手一名ハ即死シ一名ハ重傷ヲ受ケタ  
リ更ニ夜半十二時頃ヨリ五日午前二時頃ニ至ル間露軍  
ハ各方面ノ我衛兵所ニ對シ統一の奇襲ヲ行フニ至レリ  
即チ午前零時過自動車々庫ニ同零時三十分頃浦潮憲兵  
分隊廠舎ヲ同一時頃「アドミラル」埠頭ニ在リシ我海軍兵  
器積載貨車、軍司令官宿舍ヲ襲撃シ午前二時頃ニ至リ  
再々ヒ浦潮憲兵分隊廠舎及兵站部モ亦露軍ノ攻撃ヲ受  
ク  
茲ニ於テ我軍ハ自衛上露國側全部ノ武裝團隊ノ武裝ヲ  
解除スルニ決ム而シテ從來沿海州各地ニ於ケル露軍ノ  
状態ハ我軍ニ對シ浦潮ニ於ケルモノヨリモ一層險惡ナ  
ルモノアリシカハ此儘放置セハ彼等ハ浦潮ノ狀況ヲ傳



聞シ或ハ尼港ニ於テ我軍及居留民ニ對シテ爲シタルカ  
如キ未曾有ノ慘虐ヲ敢テスルコトナキヲ保シ難キヲ以  
テ浦潮ノミナラス臨時自治政府統治下ノ露軍ノ全部ノ  
武裝解除スルニ決セリ而シテ前記露軍ノ軍事行爲ノミ  
ナラス浦潮ニ於テハ道途日本兵ニ對シ四日事ヲ決スヘ  
キヲ暗ニ語レルモノニ三ニシテ止マラス之等ニ依テ看  
ルモ露軍今次ノ行勳ハ計畫的ニ行ハレシヲ思ハスンハ  
アラス  
斯テ露軍ハ大体ニ於テ大ナル抵抗ヲナスコトナク天明  
迄ニ大部ノ武裝ヲ解除シ了リ天明後「ケユルキン」半島、コロシ  
「ア島」ニ在ルモノモ亦之ヲ了レリ  
茲ニ於テ五日正午軍司令官ハ一般ニ左ノ布告ヲナシ爾  
後市中平穩ニ歸セリ

日本軍ハ三月三十一日帝國政府ノ宣言ニ基キ我軍ノ  
駐屯ニ關シ四月二日以來露國當局ハ平和的交渉ヲ進  
行中四月四日夜突然露國武裝團體ノ一部ハ我軍需品  
集積所自動車々庫兵站司令部各衛兵ニ向ヒ攻撃ヲ開  
始シ又市内我巡察兵ニ對シテ各所狙撃ヲ試ミタリ因  
テ我軍ハ如斯不法行爲ハ遂ニ危險ノ擴張スヘキヲ慮  
リ爾餘ノ露國武裝團體ニ對シ其武裝ヲ解除スヘキヲ  
求ムルノ止ムナキニ至レリト雖敢テ他ニ何等野心ヲ  
有セス直チニ帝國當局ト交渉シ秩序ノ紊乱ニ陥ルコ  
トナキニ付凡テノ手段ヲ講シツツアリ  
以上ノ事變アリタルニ拘ラス五日午後五時豫定ノ通り  
商議ヲ再開シ露國側ハ我要求ニ同意シ午後七時十五  
分調印ヲ終レリ

6895

# 肥前

我海軍第五戰隊司令官ハ軍司令官ノ協議ニ應シ五日午  
後一時迄ニ在港露國艦艇（驅逐艦六、砲艦一、特務船三）  
ノ武裝ヲ解除シ其乘員約三百名ハ陸上家屋ニ收容シ解  
除兵器等ハ軍艦肥前及肥前棧橋假倉庫ニ分納ス  
五日正午頃迄ニ知リ得タル我死傷戰死上等兵二、負傷  
二、卒四（内二ハ微傷）敵側ノ死傷ハ取調中  
ニハ府方面ノ情況  
第十四師團ハ軍命令ニ基キ在哈府露軍ノ武裝解除ヲ行  
フニ決シ各部隊ハ五日午前九時三十分一齊ニ行動ヲ開  
始セシカ露軍ノ大部ハ到ル處頑強ニ抵抗セシヲ以テ茲  
ニ猛烈ナル市街戰ヲ惹起シ市内ハ無頼ノ徒ノ放火及我  
軍ノ砲撃ニ依リ各所ニ火災ヲ惹起シ激戰約十時間ニ亙  
リ日没頃最モ堅固ナル建築物ニ據レル敵ノ一部ハ白旗

0896

隊  
砲  
隊

ヲ揚ケテ降服スルニ及ヒ戰況稍々沈靜ニ歸セシモ敵ハ  
二三ノ獨立兵營及市内數箇所ヲ占領シ頑強ナル抵抗ヲ  
試ミ夜ニ入りモ猶戰鬥ヲ繼續シ六日朝若干戰鬥ノ後概  
シテ掃蕩ヲ終レリ  
五日午後黑龍州方面ヨリ來レル急行列車三及徒歩兵約  
五百ハ海軍根據地ヲ砲撃シ尚徒歩兵ハ進テ空地ヲ包圍  
シタルヲ以テ空地ニハ先ニ歩兵一中隊ヲ派遣シアルモ  
六日新ニ歩兵約一大隊野砲一中隊ヲ派遣シ同方面ノ敵  
ヲ黑龍州左岸ニ擊攘セリ該敵ハホクロツカ附近ニ停止シ  
時々前進シ海軍根據地ニ對シ射撃ヲ繼續ス  
四日以來ノ戰鬥ニ於ケル我損害戰死將校五、下士以下  
七十九、員傷將校六、下士以下百七十七合計二百六十七  
ヲ出シ我ニ収容セル敵ノ屍体約四百ニ上ル又我居留民

六名敵兵ノ爲慘殺セラレタリト

哈府ハ目下執權者ナク一般ノ情勢混沌タリ

三、「ニコリスク」及其他ノ情況

「ニコリスク」ノ露軍ハ大部分無抵抗ニテ武装ヲ解除シタル  
モ其一部ハ頑強ナル抵抗ヲ試ミ彼我ノ間ニ激烈ナル戦  
闘ヲ行ヒタルカ如キモ逐次露軍ハ降服中ナリ

「ウゴリナヤ」(蘇城炭坑支線分岐驛)守備隊ハ五日午前一時  
「シコトワ」方面ヨリ「ニコリスク」ニ向ヒ運行セシ軍用一列車  
到着セシヲ以テ之カ武装ヲ解除ス「シコトワ」ハ五日午前八  
時半頃迄ニ確實ニ該地ノ台領ヲ終ル

南部烏蘇里ニ於テモ「スラヴヤンカ」「ノウキエフスヨエ」「バラバン」守備  
隊ハ五日朝露軍ノ武装ヲ解除ス

「ニコリスク」驛長ノ言ニ依レハ「キパリソノハ」(「ニコリスク」浦潮間)

墜道ハ露軍ノ手ニ依リテ破壊セラレタリト

参一發第百〇七號

大正九年四月十三日

参謀總長

供覽

第五師團方面ニ於テハ「ステレンスタ」並ニ「タ」西方地區ニ於テ各過激派軍ヲ擊退シ共ニ赫々タル戰勝ヲ收メタリ其狀況左ノ如シ

通報



「ステレンスタ」附近ノ戰鬪

而伯利

東部後貝加爾ノ三角地帯内ノ過軍首領「ヤモラ」ハ三月下旬末「ウシカ」河谷ニ在リレカ逐次西方方面ノ露軍ヲ壓迫シ千兵三千、砲六門ヲ以テ「ステレンスタ」ニ迫リ四月三日夜ヨリ「シルカ」河谷ノ過軍約千五百ト相呼應シテ東北南ノ三方面ヨリ「ステレンスタ」ヲ攻撃レ四日天明ヨリ漸次攻撃ノ歩ヲ進メ猛烈

第五師團<sup>ナル</sup>砲擊<sup>ハ</sup>後我守備隊<sup>ハ</sup>（歩兵第七十二聯隊第一大隊（第三中隊）及機關銃三）ニ向ヒ勸

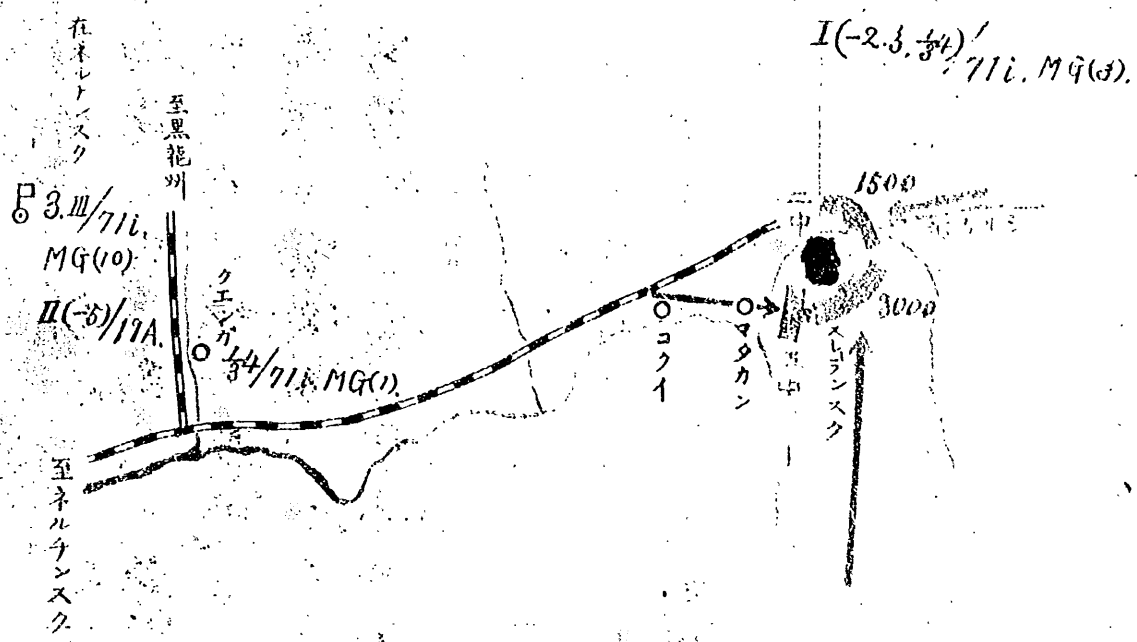
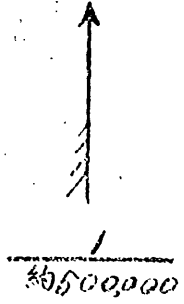
降狀ヲ送レリ守備隊長宇多少佐(良)ハ即坐ニ之ヲ卻ケ  
 テ曰ク忠勇無双ノ日本軍ハ君國ノ爲死スルヲ知リテ生  
 アルヲ知ラス汝等ト決戦シテ鏖殺スヘシト茲ニ於テ戰  
 闘ハ次第ニ猛烈トナリ我ニ協同セル露軍ハ戰意ヲ喪ヒ  
 且彈藥乏シシテ我守備隊陣地内ニ遁入シ戰況甚々悲惨  
 ナリシニ拘ラス勇戰奮闘遂ニ五日朝ニ及ヒタリ  
 是ヨリ先第五師團北地區守備隊司令官梅田大佐ハ「  
 情況ニ鑑ミ步兵五中隊ノ機關銃四、野砲四門ヲ四日  
 夜出發「スレシ」ス」ニ増援セシム該隊ハ夜半「コライ」」「スレシ」」西方  
 一里ニ達スルヤ鐵道橋破壊セシレ電線又到ル處切斷セ  
 ヲレアルヲ以テ遂ニ徒步行動ヲ以テ五日午前五時三十  
 分ヨリ急行セリ  
 午前七時三十分「マダカン」ニ達スルヤ砲兵ヲ有スル優勢ナル



敵ト遭遇シ直ニ攻撃實行。移リ全ク敵ヲ撃破セリ敵ハ  
 主力ヲ以テ南方ニ一部ハ北方ニ退却セリ増援隊ハ直ニ  
 之ヲ追撃シテ之ニ多大ノ損害ヲ與ヘタリ  
 守備隊ニ於テハ五日朝敵ノ砲兵タル四門ハ既ニ夜間陣  
 地ヲ撤シ僅カニ二門ノミ對岸露國兵營北側ニ在リテ尚  
 守備隊ヲ射撃ス然ルニ午前九時頃ヨリ敵敵動搖ノ色アリ  
 依テ午前十一時第一線中隊長ニ攻撃前進ヲ命シ且敵  
 砲兵ヲ捕獲スヘキヲ以テス第一線中隊前進ヲ開始スルヤ  
 間モナク増援隊ノ先頭中隊到着シ以テ之ヲ更ニ砲兵ノ捕  
 獲ニ協力セシメ遂ニ兩中隊ハ協力シテ敵砲一門ヲ鹵獲  
 ス  
 三日夜以來ノ戰鬥ニ於テ敵ノ死者守備隊及増援隊方面  
 ニ於テ處置シタルモノ百二十二ニシテ雪中ニ埋レ又ハ土人ノ

處分セシモノ等ヲ調査セハ五百ノ違スヘシ從テ其負傷  
者ノ數ハ莫大ナルヘシ守備隊ノ勇敢ナル戰鬪ノ増援隊ノ  
迅速果敢ナル攻撃ト相俟テ敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘ遂ニ  
其企圖ヲ拋棄スルニ至ラシム敵ノ遺棄シセル兵器彈藥  
等ハ頗ル多數ナリ守備隊及増援隊ニ於テハ戦死下士卒  
四、負傷ニ十ニシテ内將校同相當官五名ヲ含ム

0903



0904

(二) 十月西方地區ノ戦闘

西方過軍及農民軍ハ鐵道線路上「モグソン」附近と於テ我軍ニ阻止セラレタルヲ以テ「ヒロク」ヨリ有オナル一部ヲ三月下旬「インゴ」方面ニ進メ其東進ヲ企圖シ且「イルクーツク」方面ヨリ貝加爾湖上ヲ經テ莫斯科街道上ニ進出シ四月ニ入り約二千、機關銃若干ノ敵ハ「バクレミーシエフカ」(莫斯科道上)「チタ」西方約二十里ヲ占領シ外ニ約一千ノ過軍ハ「テレヒンスク」(「バクレミーシエフカ」北方約三十里)ヲ占領シテ「モグソン」附近ノ我前進部隊及直接チタヲ脅威ス

露軍第三軍團ハ未タ戦闘器械ノ補給全カラサルモ之ヲシテ先「バクレミーシエフカ」附近ノ攻撃ヲ實施セシメ步兵第五十八聯隊ノ約一大隊、山砲二門ヲ基幹トスル一支隊ヲシテ鐵道線上「ソホンド」驛附近ヨリ北上シテ之ニ協力セシム此等

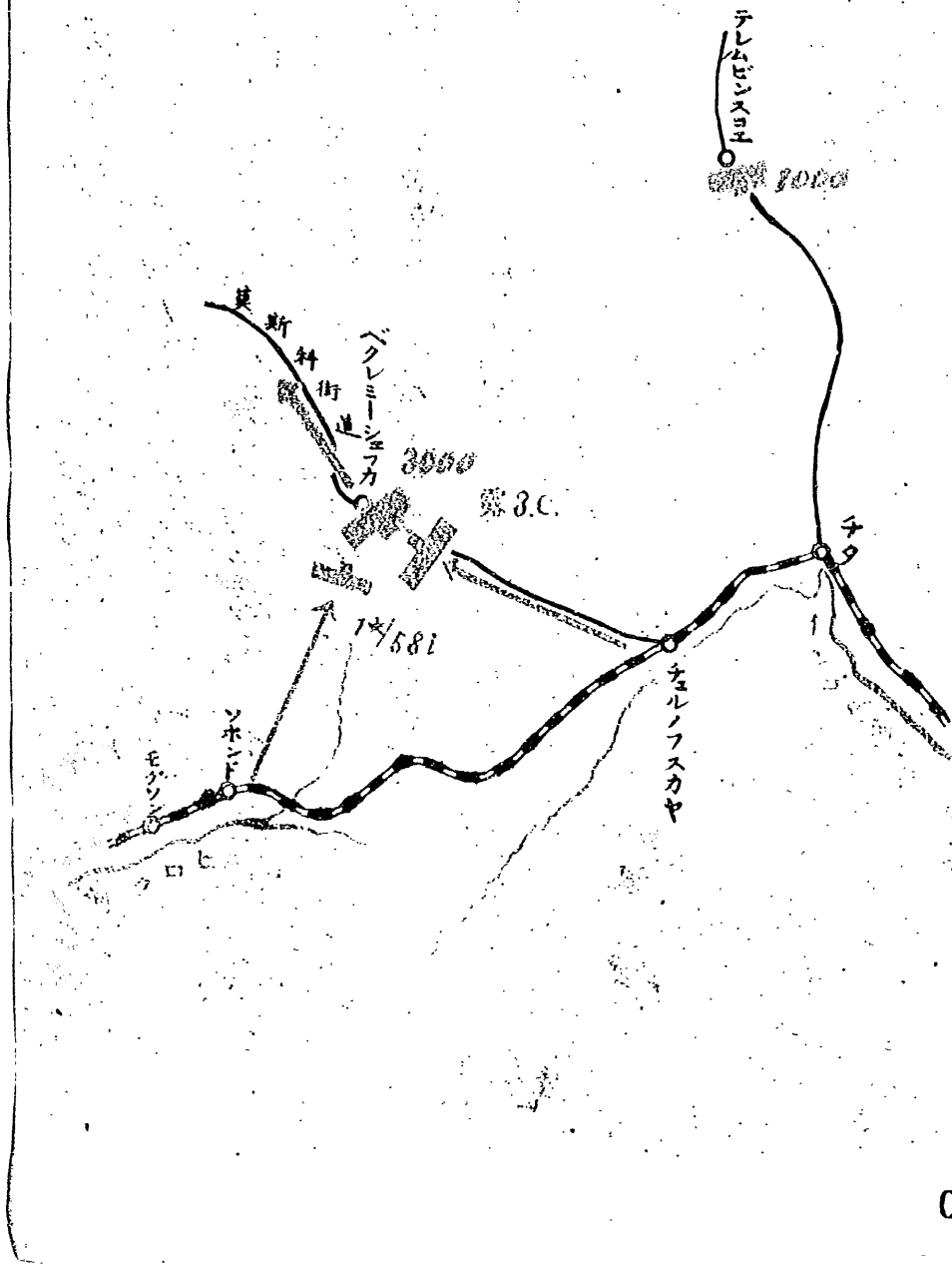
攻撃部隊ハ莫斯科街道及其北東地區迄「ロク」河谷ノ三方面ヨリ包圍的ニ敵ニ向ヒ八日午前十時ヲ期シ攻撃ヲ實施ス

敵ハ砲兵ヲ有セサルモ機関銃少クマテ有スル歩騎約三千ニテ頗ル頑強ニ抵抗シタルモ我歩砲兵ノ猛烈ナル威力ハ敵ヲレテ潰亂ニ陥ラレシメ多大ノ死者ト機関銃及戦闘資材ヲ滿載セル輜重車多數ヲ遺棄シ潰走セリ

此攻撃ハ殆ト全ク敵ヲ包圍シ其敗退ノ惨狀名狀スヘカサルモノアリ此日我飛行機ハ絶エ上空ヲ飛翔シテ西攻撃部隊ノ連絡及師團トノ通信任ヲ頗ル活動シ戦闘ノ結果敵ハイルクーツクノ方向ヨリ東進セン過軍第九師團ニ屬スル第一旅團ノ二聯隊及ゴロフ師團ノ三聯隊ニシテ農民軍ト性質ヲ異ニシテ全ク過軍ノ有力ナルモノニシテ鐵道線方面ノ前進困難ナル為我前進部隊ノ背後ヲ脅威シ東進ヲ企圖セルモノノ如キモ我攻撃ノ為殆ト全滅シ其企圖ヲ挫折セラレタリ本戦闘ニ於テ我將校ニ下士卒二十六員傷レ下士卒六戦死セリ



1  
1,000,000



0907

第一發第二〇號

通報

厄港派遣隊ハ四月三日部ヲ以テ北樺太アレクサンドロフ  
北方約五吉米ヲホロウイカニ至カシテアレクサンドロフ  
ニ上陸シ抵抗ヲ受クルコトナク官衙、兵營、監獄等及  
無線電信所ヲ占領セリ

市民ハ我ニ好意ヲ表シ新過激派及其軍隊ハ同地南方  
ヲハイセラスエレ及アルムタニ退却シタルモノ如ク在留  
邦人ハ總テ軍艦見島ニ收容ス

同地無線電信所ハ宗谷、岨府、浦潮ト直接通信シ  
得ル見込ナリ

厄港派遣隊ノ樺太ニ於テノ行動及亞境情況

樺太

九四三六

0908

編第三十六號

北部沿海州派遣隊司令部、同山砲兵大隊、同電信隊ノ  
編成ヲ令セラル 編成第一日ハ五月一日ナリ

大正九年四月三十日午前八時

陸軍大臣田中義一

海軍大臣加藤友三郎殿

軍務局受

9.5.1

0909

軍務局

第一課  
第二課

軍令部



第一課

第二課



陸軍



編第二十七號

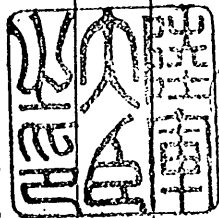
北部沿海州派遣步兵第二十五聯隊、同步兵獨立大隊、同獨立步兵隊、同騎兵小隊、同山砲兵獨立中隊、同工兵中隊、同患者收容班、步兵第二十五聯隊留守隊、編成ヲ令セラル編成第一日ハ五月

月八日十リ

陸軍大臣田中義一

軍務局

海軍大臣加藤友三郎殿



陸軍

軍務局受

0910

參一發第百十一號

通 報

參謀總長

大正九年五月十三日

9.5.16 官房覽



第五師團方面戦闘ノ情況

第五師團方面ニ於ケル過軍ハ四月二十五日拂曉以來一  
齊ニ其行動活潑トナリ各所我第一線部隊ニ對シ攻撃ヲ  
開始セリ其情況概ネ左ノ如シ



一、予ノ北方及西北方地區中村支隊(長少佐中村覺作以下步兵四  
隊ヲ基幹トス)方面ニ於テハ二十五日午前二時頃約四百ノ

敵兵「ウエルフネ」ケーンスコ正ニ位置セル據陣ヲ壓迫シテ同地

西伯利

ヲ台領シ尋テ其一部ハ同地東側地區ヨリ中村支隊ニ

知多方面對シ攻撃ヲ開始セルモ忽チ我ノ警退スル所トナリ又  
戰鬥經過

別ニ「ボツカ」方面ヨリ南進セル敵ハ「シキ」附近ニ  
在リシ露軍騎兵旅團ヲ擊退シテ同地ヲ占領セリ  
野中支隊（長佐野中保藏以下歩兵三中隊ヲ基幹トス）方面ニ於テ  
六敵兵約四百「シリシケ」河谷「ヤブロウ」隘路口ニ現出セリ  
ニ「夕」西方地區竹内支隊（長佐竹内榮喜以下歩兵六中隊ヲ基幹トス）  
方面ニ於テ歩兵約千二百砲九門ヨリ成ル敵ハ二「五  
日拂曉」シ「マレーヤ」河右岸ニ展開シテ「インゴダ」附近ニ向ヒ  
又其一部ハ「インゴダ」西北方高地ニ向ヒ攻撃ニ來リ更ニ  
午後四時ニ至リテ火砲二門及機關銃若干ヲ有スル約  
七百ノ敵ハ「フリツポロオ」ニ在ル我警戒線ニ對シテ攻撃ヲ開  
始セリ  
茲ニ於テ師團長ハ歩兵一大隊ヲ竹内支隊ニ増援シ主力  
ヲ「夕」附近ニ集結シテ中村支隊方面ノ敵ニ對シテ攻撃ヲ

執ルニ決ス即チ沢武館本隊團(長少將緒方多賀雄)ハ二十五  
日行動ヲ起シ翌拂曉「シラミタ」河隘路口北<sup>北</sup>方<sup>北</sup>南ニ連シ  
同地ヲ台領シアリシ敵兵約四百ヲ驅逐シ續テ「ウエルフネ」チ  
ケーンスコ正西方隘路口南側高地ヲ台領セル敵ヲ攻撃シ午  
前九時之ヲ台領セリ  
中村支隊ハ第九旅團ニ協力シテ「ウエルフネ」チケーンスコ正ノ敵  
ヲ攻撃シ新ニ縮成セル松尾支隊(長大佐松尾傳義)歩兵二隊半  
砲四門)ハ二十六日午後三時「ウエルフネ」チケーンスコ正ニ至  
リ同地北側高地ニ進出セシ歩兵約百砲四門ノ敵ヲ撃攘  
セリ此兩日ノ戦闘ニヨリ敵ノ戰場ニ遺棄セシ死体ハ約  
百三十ヲ算シ小銃彈藥輜重車等若干ヲ鹵獲シ我損害ハ  
死傷料枝以下十六ナリ  
四月二十七日「ウエルフネ」チケーンスコ正ニ出セル桑原支隊ハ「シ

0913

リシテ河畔ニ於テ再ヒ敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘ之ヲ「ヤブ」  
ノ山脈以西ノ地區ニ壓迫シ爾後同支隊ハ松尾支隊ニ  
合セリ  
斯クノ如ク「ヤブ」北方及西北方方面ノ敵ハ悉ク之ヲ「ヤブ」  
ノ「ヤブ」方地區ニ驅逐シ得タルヲ以テ師團長ハ新ニ西方竹  
内支隊方面ニ對スル攻勢ヲ企圖シ中村野中及松尾ノ各  
支隊ヲ以テ依然「ヤブ」ヨリ湘東側地區及「ヤブ」ガステ「ヤブ」  
附近ヲ守備セシメ歩兵第四十二聯隊本部及第三、第三大  
隊(各中隊欠)機關銃隊及歩兵砲隊ヲ竹内支隊ニ増加シテ之  
ヲ緒方支隊トナシ爾餘ノ精隊(中隊)歩兵中隊砲兵一中隊ヲ  
招致シ「ヤブ」ニ集結セリ(以上附圖第一參照)  
越「ヤブ」四月二十九日ニ至リ早朝機關銃ニ有テ敵兵約三千ハ緒方支隊  
右翼方面ニ向ヒ又約七百ノ敵ハ左翼方面ニ對シ攻勢ヲ

0914

起シ其砲兵ハコケルイロコ附近ヲ砲撃セルモ我砲兵又裝甲  
列車ノ火力ニヨリ多大ノ損害ヲ受ケテ退却セリ松尾支  
隊方面ニ於テモ此日午後ヲセイシ湖方面ヨリ機關銃ヲ有  
スル敵兵約五百又コケル湖方面ヨリ機關銃ヲ有スル約二  
百ノ敵兵ヲコケル山中ノ我陣地ニ對シ攻撃シ來レルモ交  
戰約一時間ニシテ之ヲ撃退セリ  
緒方支隊長ハ該方面ノ情況ニ鑑ミ五月三日夜半ヲ期シ  
テ攻勢ニ轉シ一擧管面ノ敵ヲ撃攘スルノ決心ヲ有セシ  
カ五月一日ニ至リ砲兵ヲ有スル若干ノ敵兵ハコケル河右  
岸地區ニ現出シテコケル湖方面ニ對シ攻撃シ來レルモ  
シ同日夕ニハ支隊ノ正面ニ對シ猛烈ナル砲撃ノ後全線  
ニ亘リテ我陣地ニ夜襲シ來レルモ午後十一時乃至十二  
時ノ間ニ於テ悉ク之ヲ撃退セリ此夜師團長ハ歩兵一大

三

0915

隊半、野砲兵一中隊ヲ鉄道ニ依リテ同支隊ニ増援セシメ  
タリ茲ニ於テ支隊長ハ三日ヨリ實施スヘキ攻撃ヲ二日  
夜ヨリ開始スルニ決シ一部ヲ以テアリツポウゴ方面、主力ヲ  
以テドムシ平地ノ敵ニ對シテ攻撃セシム

右翼隊方面、敵ハアリツポウゴ及ドムノクリューチエウスカイヤニ  
於テ頑強ニ抵抗セシモ右翼隊（歩兵第五十八聯隊ノ大隊）ノ迅  
速ナル攻撃ニ依リテ終ニモスコオ街道方面ニ潰走シ爾  
後支隊長ハ同隊ノ一部ヲ以テ敵ヲ追撃セシメ主力ヲ  
ドムノクリューチエウスカイヤニ集結セシム

右翼隊方面、右翼隊（歩兵第四十二聯隊ノ大隊）ハドムノ東北  
側高地ニ於テ敵兵約三百ヲ撃退スルヤ其後アリツポウゴ附  
近ニ在リテ約五百ノ敵モ亦惶惶退却ヲ開始セリ  
之ヨリ先鋒備隊（歩兵第十一聯隊ノ大隊）及砲兵大隊ハ午前四

時頃「モスコオ」街道南側地區ニ於テ約三百ノ敵兵ヲ攻撃シ  
西方ニ潰走セシメ直ニ之ニ追尾シワ、一擧シ「プコフレン」  
附近ニ進出シ會々西走中ナリシ敵ノ装甲列車ヲ發見シ  
テ近ク之ト戦闘ヲ開始セシモ遺憾ナカラ之ヲ逸セシメ  
タリ

斯クノ如ク右翼隊及豫備隊ハ午前八時「ピコフレン」及「  
ワヤクーカ」ノ線ニ達シ一部ヲ以テ當面ノ敵ヲ追撃セシメ  
別ニ一部隊ヲ「イゴダ」河右岸地區ニ派遣セリ  
「イゴダ」河右岸地區ニ於テハ前記ノ如ク五月一日以來砲  
數門ヲ有スル敵兵約六百「レワゴ」字及「エレミ」附近ニ現出  
シ支隊障地ノ背後及運行中ノ列車ヲ射撃シ其一部ハ「  
南方對岸」ニ進出スルニ至レルヲ以テ師團長ハ步兵一  
部ヲ「コロコ」河ニ出シ「エレミ」方面ニ對シ警戒セシメタリ



然レトモ支隊主力ノ快速ナル追撃前進ハ「インゴダ」右岸ノ  
敵ノ退路ヲ遮断シ敵ヲシテ多数ノ兵器及軍需品ヲ遺棄  
シ東方山地ニ逃走スルノ必ムナキニ至ラシメタリ  
右翼隊ハ三日正午一部ヲ「ドムクリュー」を「スカイヤ」ニ残置シ主  
カヲ以テ同隊追撃隊ニ續行レ「レヤク」附近ニ於テ約百ノ  
敵ヲ驅逐シタル後午後七時頃「ウエル」ノコンジェンスコフヲ占領シ  
支隊主力ハ四日午前二時石川大佐ノ指揮スル歩兵五中  
隊野砲一中隊ヲ「トタウロー」ニ襲撃シ列車其他ヲ以テ鐵道  
線路上ニ又歩兵ニ中隊ヲ以テ「インゴダ」右岸地區ノ敵ヲ掃  
蕩セシメタリ  
本隊關ハ支隊ノ急速ナル追撃ニヨリ各方面共ニ多数ノ  
兵器彈藥其他ノ軍需品ヲ鹵獲シ特ニ「インゴダ」右岸ニ於テハ  
火砲三、彈藥車四輛其他通信器材輜重車四百五十輛ヲ鹵

0918

獲セリ

ドムノ山平地ノ清流右ノ如クナルニ相ラスコトヲ北方及西  
北方方面ニ於テハ大ナル變化ナク「ウエル」ネチチンスコト西方  
隘路口ニハ三日尙約三百ノ敵兵陣地ヲ台領シアルヲ見  
又約三百ノ敵兵「タセ」湖方面ヨリ松尾支隊正西ニ前進  
シ來レルニ過キス師團長ハ此時期ニ於テ更ニ「ヤブ」ノ山  
脈西側地區ノ敵ヲ掃蕩スルニ決シ步兵ニ中隊砲兵一小  
隊ヲ松尾支隊ニ増加シテ「タセ」ノ両湖間ノ地區ニ進  
出セシメ野中中村兩支隊ヲレテ「ウエル」ヲ多クシテ西方隘  
路口ノ敵ヲ驅逐シ「モシゴイ」湖北ノ地ニ前進セシム  
松尾支隊ハ五日夜半營面ノ敵ノ退却ニ尾シテ前進シ  
邦ヲ以テ遠ク敵ヲ追撃セシメ主力ヲ「タセ」湖附近ニ集結  
セリ此戦鬪ニ於テ同支隊ハ多数ノ彈藥及器材ヲ鹵獲シ

五

0919

中村野中兩支隊方面ニ於テモ亦若干ノ捕虜及軍需品ヲ  
得タリ(以上附圖第二参照)

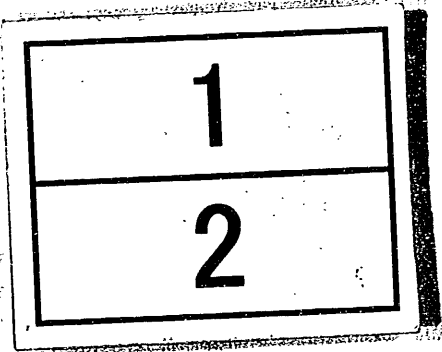
五月一日以降ノ戦闘ニ依リテ敵ノ遺棄セル死屍ハ百十  
ヲ算シ一日夜ノ夜襲部隊ヨリ「イルクーワ」本部ニ送附セシ  
報告寫ニ依レハ夜襲ニ於テ敵ノ受ケタル損害ハ三百五  
十ニ達セリト謂フ其他野中中村支隊方面ノ死者又五十  
ヲ下ラス我損害ハ戦死下士卒五、負傷大谷大尉以下二十  
八名ナリ

四月二十五日以降各地ニ惹起セル戦闘ニ參與セル敵ハ  
「アレシホ」方面ヨリ前進セル第一旅團及「タセ」湖方面ヨリ前  
進セル第二旅團並緒方支隊ニ對セル「イ」市狙撃師團ノ第  
三旅團(第一、第十四、第十五聯隊及騎兵第五聯隊、「イ」市二個聯隊及後  
貝加爾旅團ニシテ後貝加爾旅團ハ「モスコ」街道ニニ第三

旅團ノ一部ハ鉄道線路方面ニ其主力ヘ「イゴ」河谷ニ退却  
セルモノノ如ク之ニ對シ第五師團ハ緒方支隊ノ各一部  
ヲ「バクレ」ニ「ヒエー」山「ソ」ホニ「タウ」ヨ「ウ」附近ニ進メ其主力  
ヲ「ル」イ「山」附近ニ集結セシメ松尾中村野中ノ各支隊モ  
亦舊位置ニ復歸セシメ夕リ之ヲ要スルニ今期ノ第五師  
團作戰ハ何レモ敵ニ徹底的打撃ヲ加フルニ至ラザリシ  
モ各方面ヨリ「夕」ニ侵入セシトスル過軍ノ企圖ヲ確實  
ニ挫折セシメ先般來漸次陵悪ナル徵候ヲ呈シツ「ア」リ  
シ該方面ノ情況ハ爾後大ニ緩和セラルルニ至レリ

0921

# 分割撮影ターゲット

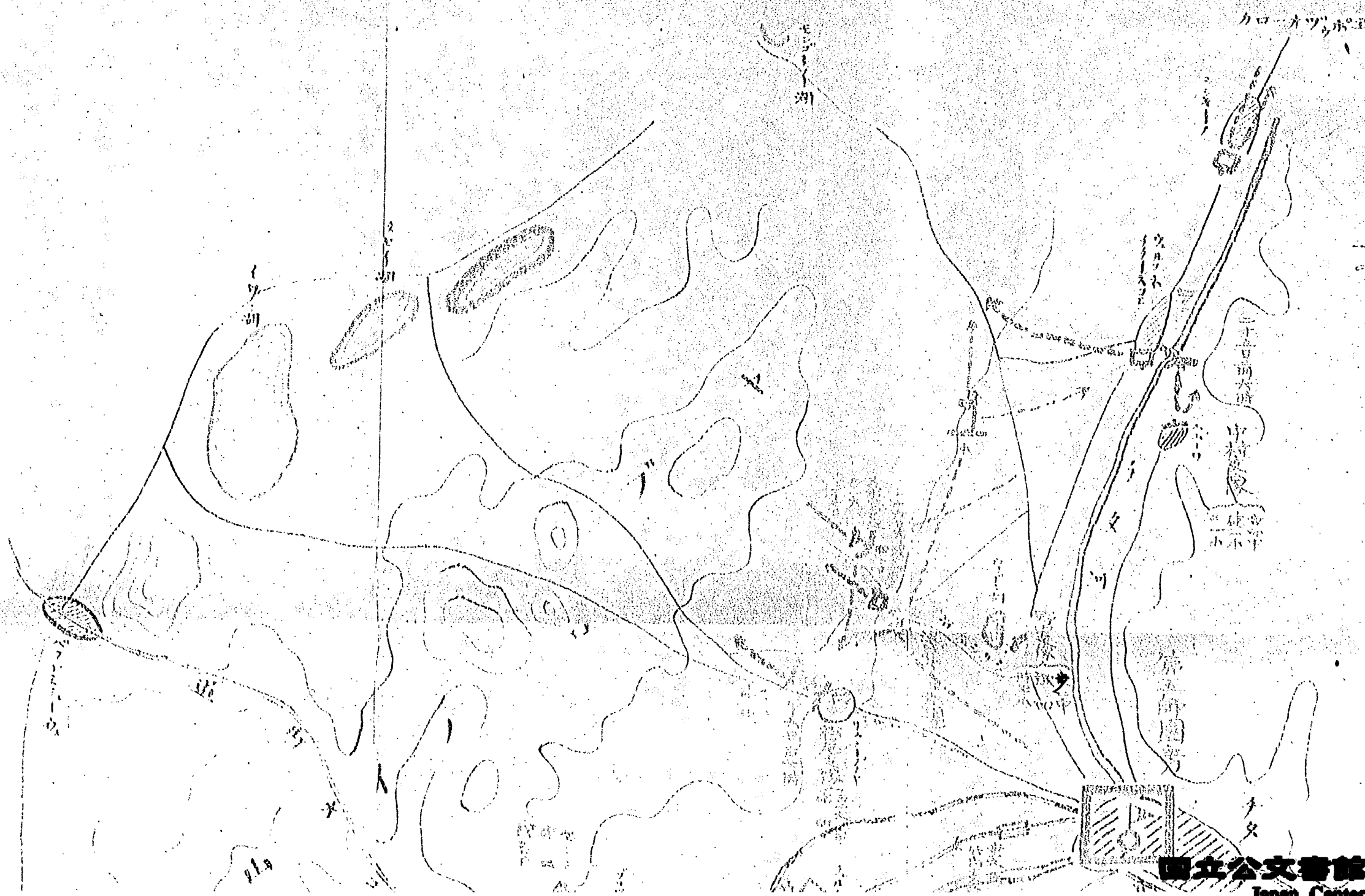
分割した  部分の  撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0922  
0923

第五師團在朝鮮戰況圖

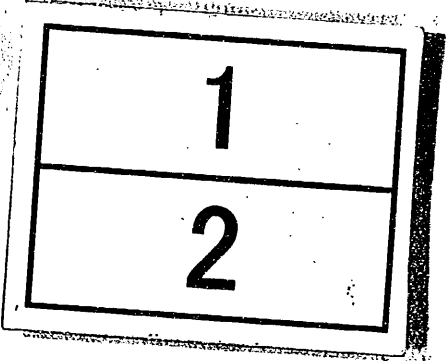
朝鮮半島

附圖第一





# 分割撮影ターゲット

<p>分割した 部分の 撮影順序</p>	
<p>分割撮影 した理由</p>	<p>A 3 版 以 上 の た め</p>
<p>上記のとおり分割撮影した事を証明する。</p>	

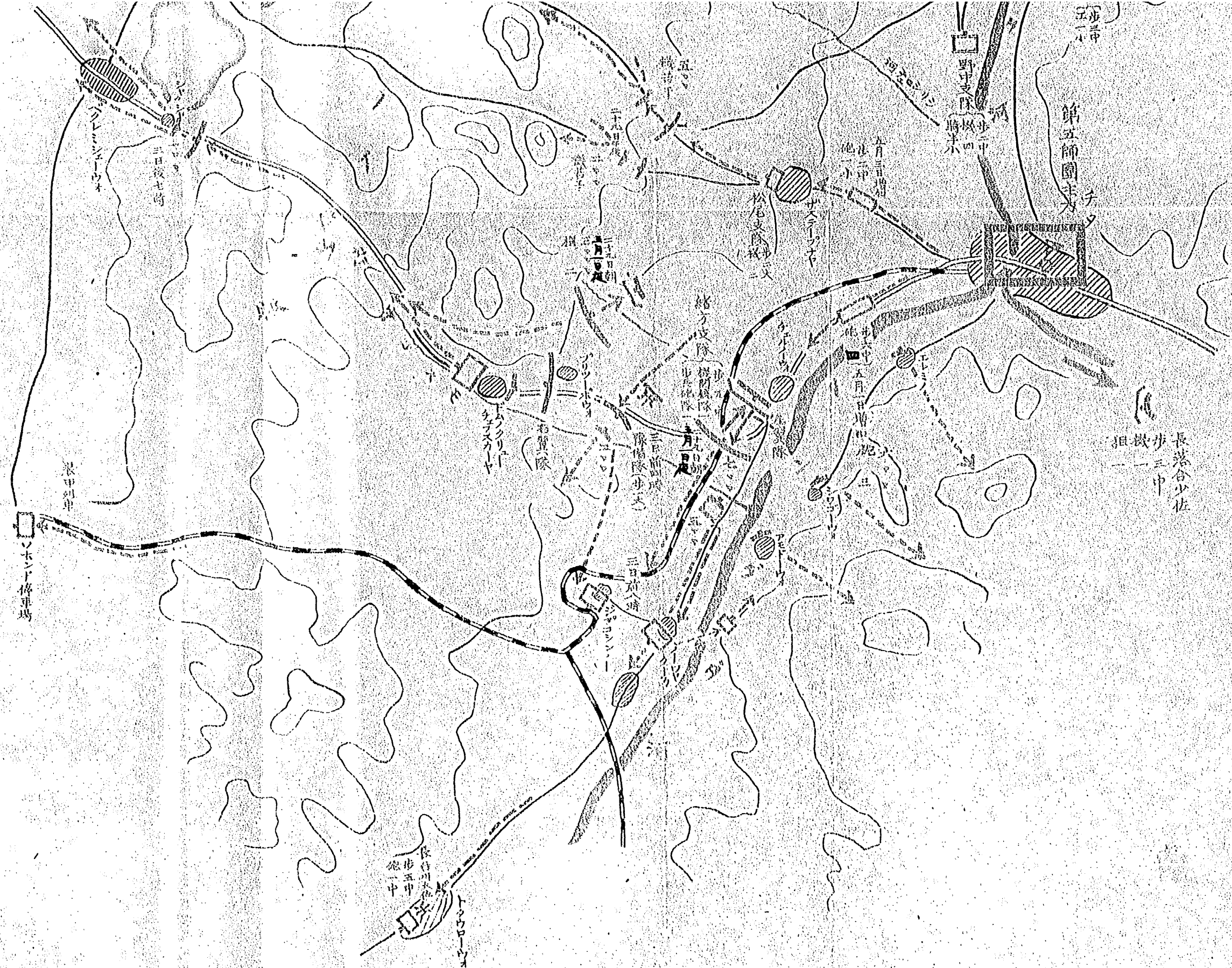


# 第五師團方面戰鬪經過要圖

西曆一九一五年五月三日

0924  
0925





長谷合少佐  
歩三中  
担一





參一發第一二二號

通報

曩一浦潮派遣軍司令官、隸下ニ増加セラレタル工兵第  
十六大隊ハ五月十七日浦潮ニ上陸シ同軍司令官、隸下  
ニ入レリ



大正九年五月十九日

參謀總長



9.5.20  
官房受領

工兵第十六大隊、浦潮上陸

0926

供覽

參一發第一二三號

大正九年五月二十五日

參謀總長

皇印 20  
電務受領

出納

通報

北部沿海州派遣隊ノ情況

水

救

「ヨラエラスク」附近ニ於ケル居留帝國臣民ノ保護並治安維持ノタメ曩ニ尾港派遣隊及「デカストリ」守備歩兵中隊ヲ出動光ツ亞港ニ派遣セルメラレタルモ其後該方面ノ情勢ニ鑑ミ更ニ其兵力ヲ増加シテ之ヲ北部沿海州派遣隊トナシ「ヨラエラスク」ニ於ケル我守備隊以下居留民ヲ救護シ同地及亞港ニ於ケル帝國居留民ノ保護並治安維持ニ任セルメラル共端成左ノ如シ

派遣隊司令官 陸軍少將 津野一輔

北部沿海州派遣隊第十五聯隊

0927

步兵獨立六隊  
 獨立步兵隊(二中隊)  
 騎兵小隊  
 山砲兵大隊(二中隊)  
 山砲兵獨立中隊  
 二兵中隊  
 電信隊  
 患者收容班  
 右ノ外豫ヲ尾端ノ待備ニ任  
 隊第三大隊(二中隊又)及新  
 同大隊ノ二中隊及機銃ニ  
 配屬セララル  
 二、北部冷海州ノ過軍ヲ掃蕩シ  
 危港ニ前進センカタメ諸

隊ノ行動概ネ左ノ如ク豫定ス

一、多門大佐ノ指揮スル歩兵獨立大隊及山砲兵獨立中

隊ハ「デカストリ」ニ上陸シテ「ソフィンスク」又ハ「マリンスク」ウズベ

ンスク附近ニ進出シ此所ニ第十四師團ノ派遣部隊ヲ

併セ臨時海軍派遣隊ト協力シテ黒龍江ヲ下航シ尼

港ニ至ル

二、派遣隊主力ハ小樽ヲ出發シ海路直ニ尼港附近ニ上陸ス

三、獨立歩兵隊ハ亞路ノ守備ニ任ス

三、國分中佐ノ指揮スル第十四師團ノ派遣部隊及臨時海軍派遣隊

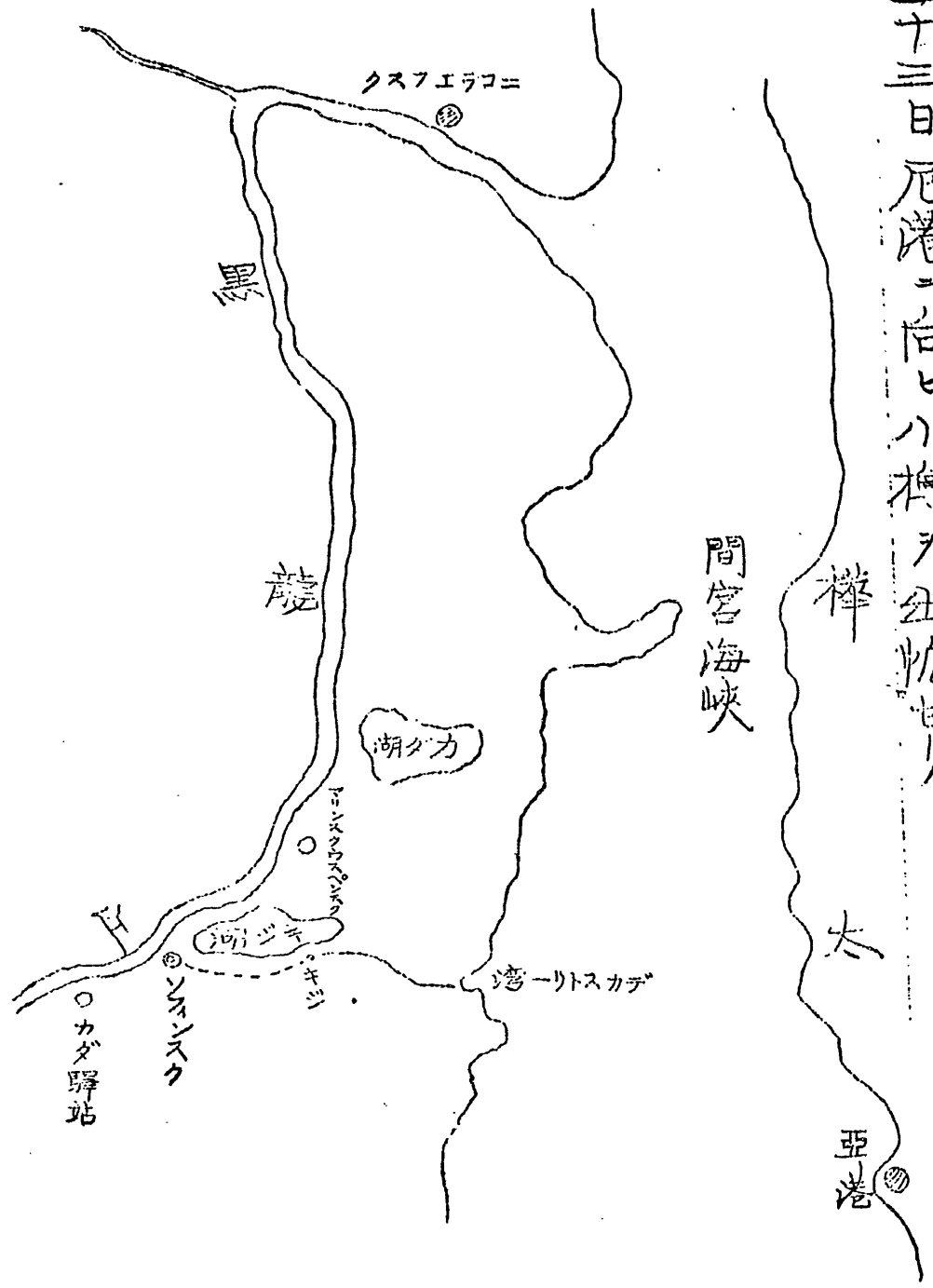
(大型砲艦) 小型砲艦二通報艇一運送船二「バルガ」五(ハ五月十七日哈

府ヲ出發シテ黒龍江下リ二十日「カガ」驛站(ソフィンスク)西方十五英里

ニ達シ陸軍部隊ハ直ニ上陸シテ同方面ノ過軍掃蕩ニ着手セリ

四、多門大佐ノ指揮スル部隊ハ其先發隊ヲ以テ五月十四日主力ヲ以

天同十九日「デカストリ」灣ニ上陸北陸部沿海州濃遣隊ノ主力ハ五  
 月二十三日尾港ニ向ヒ小樽ヲ出帆セリ



0930